

### どうしょひょう 蔵書票を知っていますか？

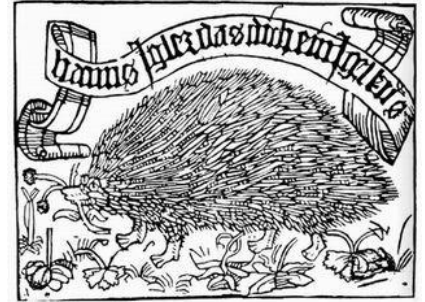
「蔵書票」とは、本の表紙の裏に貼って、その本の持ち主を明らかにするための紙片のことです。ラテン語で「誰それの蔵書から」という意味の ex libris (エクスリブリス) が世界共通の名前となっています。

昔、本はとても高価なものでした。ヨーロッパで本を所有できたのは、貴族か修道院だけでした。

1400年頃に活版印刷が発明され、本が大量に出版されるようになったことで、個人で本を集める人や図書館のような施設が現れます。それにもない、本の紛失を防ぐため、表紙の裏に所有者を表す紙を貼り始めました。これが蔵書票です。最古の蔵書票は、1450年から1470年頃に作成されたという説のあるヨハネス・クナペンスベルク「ハリネズミの蔵書票」といわれています。(右図)

18世紀には、蔵書票作家に蔵書票を依頼する人が増えて「紙の宝石」とよばれるようになり、芸術作品としてコレクションの対象になりました。

ただし、蔵書票は売買ではなく交換することで、コレクションしていきます。お互いが持っている蔵書票を等価交換していくのです。



『本の中の小さな宇宙 蔵書票と蔵書印 常設展示 第50回』,国立国会図書館. 国立国会図書館デジタルコレクションより

～本を盗む人は  
ハリネズミにキス  
される～  
と書いてあるよ！



日本では、長いこと蔵書印(はんこ)が使われてきました。日本の書物は、和紙を使った巻物や和綴じ本でやわらかいのはんこが適していました。日本の最古の蔵書印は、奈良時代・光明皇后の蔵書印と言われています。

日本に蔵書票が紹介されたのは、1900年発行の文芸雑誌「明星」に掲載されたのが最初です。

その後、竹久夢二や棟方志功などの画家や版画家が、版画による蔵書票の製作を始めました。

これからは電子書籍が主流となり、紙の本を所有することが特別になっていくかもしれません。自分の本の目じるしに、蔵書票を作って貼るのも楽しいかもしれませんね。



タブレット・スマホからはこちら→

